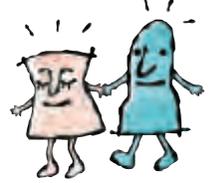


# THE **ライフルスポーツ** RIFLE SPORTS

2021 **6**  
第451号



- 第32回オリンピック競技大会(代表選手コメント)
- 東京2020パラリンピック競技大会



スポーツクジ

toto  
FOR ALL SPORTS OF JAPAN

BIG



# ライフルスポーツ

## 巻頭言

監事 岸高 清

### TOKYO 2020大会を終えて

昨年春の延期の際にはとても無理ではないかと案じていたオリンピック・パラリンピック大会が開催され、オリンピックは98、パラリンピックは44の国と地域から合わせて512名のトップ選手が朝霞射撃場に集い、無観客ではあったが、滞りなく射撃競技が開催された。

まずは工事や施設整備の大幅な遅れ、不備を不眠不休でリカバーして開催にこぎつけた、多くの関係者の皆さんに敬意を表し、深く感謝したい。開催側にいた者のひとりとしては本当によくまあできたなというのが正直なところであった。

ただ、選手を支えていただいている皆さんや多くの会員と、会場での正に感動的な選手たちの競技の様子を、その場で共有できなかったことは、本当に残念であった。この貴重な経験は我々の代表選手や運営に関わった会員の心にそれぞれ深く刻まれ、競技に止まらず今後の人生の糧となってくれることを祈るのみである。

空港から帰国する選手達は、皆例外なく達成感を持った表情で、日本のスタッフに感謝をしながら搭乗ゲートに向かって行った。これは、このTOKYO 2020大会という場に、世界から集まった選手達が競い合っって信頼と相互理解を深め、さらに障害も一つの個性であると実感できる場を拓けることができた証ではないかと思った。



### 今月の表紙

東京2020パラリンピック  
日本代表選手団と NTO。  
上段左から、深澤佑樹 (NTO)、  
猪坂桂 (監督)、谷川諒 (NTO)、  
山下せろな (NTO)  
下段左から、水田光夏 (選手)、  
渡邊裕介 (選手)、羽田順一  
(コーチ)、佐々木大輔 (選手)

## 目次

第32回オリンピック競技大会 (2020/東京)	
日本代表選手コメント	2
東京2020パラリンピック競技大会	
記念号について	8
感動の東京パラリンピック開催さる	9
パラリンピックの射撃競技	11
東京2020パラリンピック競技大会成績報告	13
パラリンピック日本代表選手コメント	17
パラリンピック Field Cast 活動記	19
東京大会報告	21
パラリンピック射撃競技の医務室報告	29
コンサート・カメラマンが‘アスリート’を撮る	31
海外チームからの声	33
本校の取組について	37
東京2020オリンピック・パラリンピック	
競技大会について	39

東京2020パラリンピック競技大会 (日本 / 東京)  
ライフル (50m) ナショナルチーム選考会②  
ピストル (25m) ナショナルチーム選考会②



# 第32回オリンピック競技大会 (2020/東京)

## 日本代表選手コメント

代表選手にアンケートをお願いし、大会後のコメントを頂きました。

### 【アンケート項目】

- ①出場種目1・成績 ②出場種目2・成績 ③出場種目3・成績
- ④試合における自己分析・成果
- ⑤応援していただいた方へのメッセージや感謝のコメントなど
- ⑥大会運営について感想・コメントなど
- ⑦選手村での生活・感想など
- ⑧その他エピソードなど
- ⑨大会期間コロナ対策等でどんな困難がありましたか？
- ⑩日ラ会員の皆さんへメッセージをお願いします。



岡田直也

- ①10mAR 個人 (男子) 625.7点 20位
- ②10mAR 団体 (混合) 625.6点 (314.2) 13位
- ③50m3×40 個人 (男子) 1158点 31位
- ④試合中は迷うことなく自分の射撃をやりきることができた。大会以前から試合を想定して、試合前の準備期間の練習内容や、コーチとの意見のすり合わせを早期から行なっていきたい。
- ⑤東京2020大会においては勿論のこと、出場を目指す過程で応援、ご支援いただいたことが、たいへん力になりました。  
世界との差を感じる結果とはなりましたが、五輪への挑戦の過程で競技力を向上させることができたと感じています。応援、ご支援いただきありがとうございました。
- ⑦食事の味と安全性から日本開催の利点を感じた。  
メインダイニングは2階建てで、十分な食事スペースが確保されており安心して利用できた。
- ⑨大会期間困難に感じることはありませんでした。  
消毒、検温はもちろんのこと、毎日のPCR検査がありましたが、NTCでの合宿において日々の習慣になっていました。  
競技会場、選手村では不便を感じることなく過ごせました。
- ⑩応援、ご支援ありがとうございました。  
多くの方がWEBサイトでの速報を通じて応援いただいていたことを知り、励みになりました。  
競技会場では多数の役員、ボランティアの方々にもお世話になりました。  
見知った方も多く、不安なく競技に向き合うことができましたこと心より感謝いたします。

これからも皆様に良い結果を報告できるよう精進してまいります。

---



松本崇志

- ①10mAR 個人（男子） 621.7点 37位
  - ②10mAR 団体（混合） 620.3点（308.2） 26位
  - ③50m3×40 個人（男子） 1145点 37位
  - ④試合の緊張感や脈拍の高い状態でどのように落ち着くか、その揺れの中でどうやって引き金を引くか、ルーティンとして確立しなければならない。  
また、基本的な据銃力の強化に合わせて、風を読み、撃つ撃たないの判断力も必要である。
  - ⑤たくさんの応援ありがとうございました。  
これまで支えてくださった方への感謝の気持ちを忘れず、最後まで諦めることなく闘うことができました。
  - ⑥スムーズな大会運営ありがとうございました。  
また多くの日本人のスタッフは心強く、不安なく試合に集中できました。
  - ⑦選手村には2つのダイニング会場があり、1つは日本食メインでした。普段と変わらない食事を摂り、コンディションを整えられました。  
選手村から射撃場までは1時間ほどでしたが、首都高は全く混んでおらず、移動も長く感じませんでした。  
選手村は各エリアが広く移動には時間がかかりますが、散歩のような感覚で回りリフレッシュできていました。  
居室も必要なものは揃っており、不便さは感じませんでした。
  - ⑧無観客の大会となりましたが、ボランティアの方が大会を観てくださり応援は心強かったです。
  - ⑨この1年半やってきた感染症対策と大きく変わることはなく、改めて困難と思うことはなかった。
  - ⑩たくさん応援ありがとうございました。  
納得のいく結果ではありませんでしたが、気持ちを新たに向かっていると思います。  
若い選手の方は、次は自分の番だという気概を持って欲しいと思います。
- 



吉岡 大

- ①25mRFP 個人（男子） 582点（×17） 8位
- ④点数としては、世界と戦えるようになったと感じています。ですが、足りないことも見つけました。それが、失敗を恐れる心です。これを克服するのはなかなか難しいと思いますが、世界一を目指すには避けては通れないので、どうにかして身につけていきたいと思っています。
- ⑤コロナ禍で様々な意見、特に否定的な意見が一部ある中、組織委員会及びボランティアの方々のおかげで、事故なく円滑に競技が進んでいったと思います。本当にありがとうございました。

⑨関係者の方々のおかげで、円滑に対策できていたと思います。

オリンピック運営だけでも大変な中、コロナまで面倒を見ることは、生半可ではないと感じています。感謝こそありますが、不満点は一切なかったです。

⑩射撃はRFPとCFPしか分かりませんが、射撃に1番必要なのは筋トレです。

筋トレすれば分かりますが、フィジカルとメンタルの両面を鍛えられるからです。射撃で伸び悩むことがあれば、筋トレするのが効果的だと確信しています。知らんけど、



堀水宏次郎

①10mAP 個人（男子） 576点 16位

②10mAP 団体（混合） 559点（282） 20位

④オリンピックの緊張感の中でも理想的な射撃が多くできたと思う。しかし、他国の選手と比較すると力の差はあると感じた。競技ルールが少しずつ変化していく中で、試合で通用する技術や精神面の強化の方法も変わっていくように感じた。強豪国がどのような強化をしているのかとても興味深い。

⑤沢山の方から応援の声をいただき、自信を持って競技に臨むことができました。おかげ様で、とても貴重な経験となりました。ありがとうございました。

⑥役員やボランティアの方などは過酷な環境の中での活動だったと思うが、とてもスムーズな運営だった。

⑦メニューが豊富だったので、コンディションに合わせてながら食事ができた。揚げたての天ぷらなどの日本食が楽しめたのも良かった。

シャトルバスが時間どおりに運行されており、渋滞もなかったので安心して乗車できた。

とてもリラックスして過ごせた。また、選手村から見た東京の景色はとてもきれいだった。

⑧競技会場や選手村でボランティアの方たちの交流がとても楽しかった。

競技会場や選手村で、他国の選手と挨拶を交わしたり、ピンバッジを交換し合うなどして、交友を深めることができた。

とても親切に対応してくれた。サポート拠点はHPSCにいるような雰囲気での安心感があった。

⑨対策は徹底されていたと思うが、ドアノブなどを直接手で触ることがないような対策があればより安心感があったと思う。

⑩様々なサポートや応援、大変ありがとうございました。一人ひとりの射撃に対する思いがオリンピックに繋がっていたと思います。この東京大会を新たなスタートとして、これからも射撃競技発展のため共に頑張っていきたいと思います。

---



平田しおり

- ①10mAR 個人（女子） 622.1点 34位
- ②10mAR 団体（混合） 620.3点（312.1） 26位
- ③50m3×40 個人（女子） 1169点 11位
- ④礮部さん、گرانコーチに言われたように緊張している中で緊張をコントロールし撃てていたと思う。3種目に出場したが、それぞれでこれまで練習して来たことを活かしたし、試合で良かったところを次の種目への自信も付けていくことができた。「東京オリンピック」は1度だけの経験であり、ここまでの経験は必ず今後へと繋がる大切なものになりました。
- ⑤いつも応援して頂きありがとうございます。皆さまからの応援に結果で応えることは出来ませんでした。期間中の苦しい場面で皆さまからの応援が力に変わり踏ん張ることができました本当にありがとうございました。ここでの経験を活かし、今後に向けてまた挑戦して行きますので今後とも応援して頂けると嬉しいです。よろしくお願い致します。
- ⑥ボランティアの方も多く、この大会がたくさんの方が関係し、作られている事を感じました。全ての方のサポートに感謝しています。
- ⑦マリナーズコートも活用し、好きなものが食べられたので食事面も気にならず、しっかり生活出来ていました。
- ⑧射撃場は仮設のためしょうがないですが、音の響きや壁の薄さが気になりましたが、慣れてしまえば問題無かったです。  
選手だけでミックスゾーンに行っても取材が長くなってしまいますので、止めてくれる方が必要だなと感じました。ボランティアの方が行ってくれた時もありましたが、とても長く感じました。  
会場や選手村で沢山のボランティアさんとすれ違う度に「頑張ってください！」と言われ嬉しかったです。  
外国人選手とピンバッジの交換が沢山出来たので嬉しかったです。選手村では競技も分からず交換していたので、英語が話せれば聞きたかったです。笑  
バスに忘れ物をしてしまい、離村直前だったのでJOC本部、落とし物のカウンター等聞き周りしましたがまだ回収が追いついておらず迷惑をかけてしまいました。
- ⑨細かな消毒や検温などは慣れているので特に問題は無かったです。
- ⑩代表として東京オリンピックという舞台で戦えて本当に良かったです。これからも高みを目指し皆様に応援して貰えるよう頑張っていくのでよろしくお願い致します。



中口 遥

- 
- ①10mAR 個人（女子） 622.2点 32位
  - ②10mAR 団体（混合） 625.6点（311.4） 13位
  - ④試合前約3週間、試合中における積極的なリカバリー、積極的な射撃について主に取り組んできました。本選中良くない時に休憩を挟む決断ができたことは練習してきたことの成果だと感じています。やってきたこと、自分の射撃に今以上に自信を持って試合に臨んでいきたいと思います。
  - ⑤大会開催が危ぶまれていた中、本当に多くの方から温かいご声援を頂き、とても励みになりました。この経験を今後を活かし、今以上に多くの方に結果で恩返しをしていきます。
  - ⑥役員、ボランティアの方のおかげでスムーズに試合に臨むことができ感謝の気持ちでいっぱいです。
  - ⑦日本食を食べられるダイニングがあることで、普段に近い食事ができ、満足しています。  
バスの便数を増やしてもらったりと対応して頂けて良かったと思います。  
コロナ対策で1人1部屋用意して頂けたことは安心できるなと思いました。
  - ⑧ボランティアの方にはこまめに使用した射座や机、イスなどの消毒をして頂き、本当にありがとうございました。  
ピンバッジを通して多くの国の選手と交流ができて楽しかったです。  
試合に万全の状態で臨めるよう、選手村にスープなどの提供ブースなどを設置して頂き、ありがたかったです。
  - ⑨久しぶりの大人数での試合だったので、今までよりも感染対策を徹底していかなければならない点。
  - ⑩温かいご声援ありがとうございました。結果は満足いくものではありませんでしたが、貴重な体験を今後にしっかり活かし、さらに成長していけるよう頑張っていきますので、これからもご声援を宜しくお願いします。



山田 聡子

- 
- ①10mAP 個人（女子） 570点 23位
  - ②10mAP 団体（混合） 559点（277） 20位
  - ③25mPistol 個人（女子） 563点 43位
  - ④このコロナ禍というのは十分理解しておりますが、やはり国際大会への参加というのはこの大舞台の前には必要だったと思いました。  
何年も国際大会に出ていない状況下でしたので、経験して修正調整してから臨むべきだったのではないかと思います。
  - ⑤日頃から沢山の方から応援メッセージを頂きました。  
日本代表選手として情けない結果になってしまい悔しい限りです。すみませんでした。  
私のオリンピックでの挑戦はここで終わりますが、来年の世界選手権で枠取り

に入れるように今後も精進して参ります。

このコロナ禍で射撃の試合ができたことにとても嬉しく思います。

⑨射場内にもう少し消毒液があったらよかったですのでは無いかと思いました。

トイレでも消毒液無いところもありました。

⑩日本代表選手として最後まで諦めずに戦いました。結果として皆さんにお見せ出来なかったのですが、今回の試合の中で自分の成長を感じた部分もありました。また3年後に向かって、次は皆さんに笑顔で報告が出来るように今よりもっと工夫し考えて臨んでいきたいと思います。今後もどうぞよろしくお願い致します！射撃場などでお会いした際は是非声をかけてくださると嬉しいです。



佐々木千鶴

①10mAP 個人（女子） 556点 50位

②25mPistol 個人（女子） 567点 40位

④試合での自分について、練習でできている自分をしっかり発揮するための力を改善していきたい

⑤東京オリンピックという場で射撃ができたこと、そしてたくさんの方に応援していただいたことに感謝申し上げます。

思うような結果を得られることはできませんでしたが、本当に素晴らしい経験をさせていただきました。ありがとうございます。

⑨特にありません。

⑩東京オリンピック、身近に応援を感じる事が大きな支えとなり、オリンピックに挑むことができました。

結果を得られなかったことは、申し訳ない気持ちでいっぱいですが、あの場で射撃ができたことに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。応援いただき、本当にありがとうございました。

# 東京2020パラリンピック競技大会 記念号について

会長 松丸喜一郎

9月号のオリンピック大会記念号に続き、本号はパラリンピック大会を特集した。

大会の運営を担った多くのNTOにとって、パラリンピアン競技運営は初めての経験であったが、オリンピック大会同様に素晴らしい大会運営をしてくれた。組織委員会もユニバーサル対応だけでなく、基礎疾患を持つパラリンピアンのために徹底した感染予防と万全の医療体制で臨んでくれたお陰で、大きな問題もなく大会は成功裏に終了できた。大会の準備、運営にご尽力いただいた関係各位に協会を代表して感謝を申し上げたい。

本号はオリンピック大会記念号で掲載できなかった、大会の主役であるオリンピックとパラリンピアン全員の声を掲載した。またパラ競技の説明、学校連携で大会を観戦した小学生の感想、医療関係者、パラ写真の専門家、そして数々の困難を乗り越えて大会を開催したことに対して寄せられた各国の選手や役員からの感謝のコメントも載せている。

東京2020オリンピック・パラリンピック大会のビジョンである「多様性と調和」、「共生社会の実現」に向けて我々が何を成すべきか、その方向を見出す一助になれば幸いである。



写真：長田洋平／アフロススポーツ

# 感動の東京パラリンピック開催さる

心からの「おもてなし」～ありがとう～

日本障害者スポーツ射撃連盟  
会長 霜 礼次郎

東京パラリンピック射撃競技は、オリンピック競技会場と同じ、朝露の仮設射撃場で開催された。日本からは、三名の選手が出場した。コロナ禍にもめげず、練習にも試合にも、悪条件の中で良く頑張った。又、大会運営は、主管である日ラより松丸会長をはじめとする香西氏など、役員一同のご支援があり、立派に行われた。心から感謝を申し上げます。加えて各部署の運営は、多くのボランティアが参加して行われたが、仕事の面ではテキパキと明るく「おもてなし」をして、各国選手にも高く評価されていた。大会が無事終了し、ホッとしているが、コロナ禍のもと、各国選手団は、日本観光や、名所、美術館、博物館などを訪問していただけなかった事に、主催国として残念に思っている。よって、当連盟会長として、各国選手団へのお土産として、日本の文化財と思っている日本に伝来した「火縄銃」のルーツの歴史と、日本独得の美術である、私の所蔵している「浮世絵」のコピーを差しあげ、「おもてなし」の一助として、多くの温かい反応があった事を付記したい。

障害者スポーツ射撃の歴史と今後の課題、日本に於ける障害者射撃のルーツは、一九八〇年「世界障害者年」に合わせ、千葉県に於いて「身障者を国体へ」と言うスローガンのもとに、第一回大会が開催された。これが、関東大会、全国大会へと発展し、組織化された。髭の殿下で有名だった三笠宮殿下のご理解とご支援のお陰で、競技選手が出現し、全国から参集した選手達は、私が団長として、初参加したシドニーパラリンピックに同じく初参加した。その折、中国、韓国のコーチとの会話の中で「日本は、民間の選手が中心で良いですね」という言葉を聞いて驚いた事を憶えている。今回のパラリンピックで感じた事は、参加国の多くは、軍人の障害者が多く、国家管理の基に、リハビリの一環として、競技を支援している事が推測された。以上をふまえて、日本の障害者スポーツ射撃は、①民間の児童、生徒そして労働災害障害者、事故災害者などの射撃大会の開催 ②国家及び、射撃協会の障害者競技への支援の拡大、等々を、今後の議題として要望したい。

## 謝辞

私は、第一回身障者射撃大会から、今回の東京パラリンピック大会まで、四十一年間に亘って、会長を務めさせていただき、多くの皆さま方にご理解とご協力をいただきました事に、心から感謝申し上げます。そして本大会に於いて、メダリストへのメダル・花束の贈呈式に、日本代表として、贈呈者のひとりに選ばれました事、生涯の最も名誉であり、感動した一場面でありました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

# History of Japanese Matchlock Gun



Bodyguard of Emperor Rudolf II of Bohemia carries musket with sharply curved butt in de Gheyn engraving. His elaborate equipment contrasts with simple gear of early 16th century knight (at right).



Early 16th century landsknecht loads his matchlock, which has straight German stock designed to be fired from the cheek. Note that artist has reversed the gun, making it left-handed.



French use arquebuses against Indians in Florida in 1560's.

1543ys



Japanese snapping matchlock with lacquered stock;



R. Shimo

霜禮次郎自身の著書「和銃の歴史」から抜粋した前装銃の資料。各国選手団へのギフトの一つとしてお渡しし、好評であった。

# パラリンピックの射撃競技

## ○歴史

パラリンピックでは、射撃競技は1976年のトロント大会から正式競技となりました。日本は、2000年シドニー大会に4名の選手が初参加しました。以後、2020東京大会に至るまで日本は連続出場しています。2004年アテネ大会では、瀬賀亜希子がエアライフル伏射 SH2クラスで8位に、田口亜希がエアライフル伏射 SH1クラスで7位に初入賞しました。2008年北京大会では田口亜希が2大会連続の入賞を果たしています。

## ○種目

パラリンピックでも、基本的にはオリンピックと同じ種目と競技内容です。ライフル種目とピストル種目があり、その中で標的までの距離と射撃姿勢などが異なる種目があることには変わりはありません。主な違いは、エアライフル伏射種目があることです。また、オリンピックでは50m 伏射と50m ピストルが外され、ミックスチームが入りましたが、パラリンピックではミックスチームは東京大会では導入されず、50m 伏射と50m ピストルが残っています。2020東京大会では、2016リオ大会からライフル種目が1種目増えて、13種目が実施されました。種目一覧をご覧ください。2024パリ大会でも同じ種目が実施されることは確定しています。

なお、国際パラ射撃連盟（WSPS）は2028ロス大会で視覚障害クラス（SH3）のエアライフル2種目とクレ射撃（トラップ）を正式種目に加えることを目指しています。これら種目は世界選手権やワールドカップですでに恒常的に実施されています。

パラリンピック東京大会の実施種目

種目略号	種目名	発射弾数	性別	クラス
R1	10m エアライフル立射	60	男子	SH1
R2	10m エアライフル立射	60	女子	SH1
R3	10m エアライフル伏射	60	混合	SH1
R4	10m エアライフル立射	60	混合	SH2
R5	10m エアライフル伏射	60	混合	SH2
R6	50m ライフル伏射	60	混合	SH1
R7	50m ライフル3×40	K40、P40、S40	男子	SH1
R8	50m ライフル3×20	K40、P40、S40	女子	SH1
※ R9	50m ライフル伏射	60	混合	SH2
P1	10m エアピストル	60	男子	SH1
P2	10m エアピストル	60	女子	SH1
P3	25m ピストル	速射30、精密30	混合	SH1
P4	50m ピストル	60	混合	SH1

※ R9は2020東京大会からの新種目。

## ○競技ルール

パラリンピックの射撃では、選手の障害の状態により、テーブルや椅子、車椅子などを用いて射撃をすることが許されます。義足や義手、補装具や両脚の長さの差を補う靴などの使用が、クラス分けで認められます。

競技規則は、ISSF 規則をベースに WSPS のルールを追加する仕組みです。使用する銃や競技時間などは基本的に同じです。異なるところがいくつかあり、たとえば、SH2クラスの伏射の競技時間は、ISSF より10分長く、60分です。また、手や腕に重度の障害がある場合、クラス分けで承認されれば、トリガーを延長することなどが認められます。競技運営面では、競技中にコーチが選手にコーチングをしたい場合、射場役員の許可を得た上で、コーチが射座の選手側に行ってコーチングすることが許されています。

## ○クラス分け

ライフル種目には、SH1とSH2の2つの障害クラスがあって、クラスごとに順位がつけられます。ピストルはSH1の1クラスだけです。SHの意味ですが、単にShootingの頭のアルファベット2文字の略称です。

### ・ピストル種目

自分で銃を保持する選手

⇒ SH1クラス

### ・ライフル種目

自分で銃を保持する選手

⇒ SH1クラス

上肢に障害があり、規定の支持スタンドを用いる選手

⇒ SH2クラス

## ○用具検査

国際大会の用具検査では、ISSFの検査に加えて、もう1ライン WSPSの検査を行うラインが設定されます。ISSFのラインでは、ジャケットの固さ・厚さや銃のディメンションなどのおなじみの検査が行われます。WSPSのラインでは、WSPS特有の検査が行われます。テーブルや椅子類の検査とともに、背もたれが許可されている選手は背もたれ高さの上限位置を示すテープをジャケットの背中に張ります。SH2クラスの選手は、銃の重心バランス位置の確認や支持スタンドのスプリングの固さの検査があります。

(日本障害者スポーツ射撃連盟 事務局長 田中辰美)

# 東京2020パラリンピック競技大会成績報告

東京2020パラリンピック選手団  
監督 猪坂 桂

東京2020オリンピックが閉会した約2週間後の8月24日、遂に東京2020パラリンピック競技大会が開幕しました。射撃競技は後半の8月30日から閉会式のある9月5日まで、すっかりパラリンピック仕様にお色直しされた朝霞射撃場にて熱戦が繰り広げられました。オリンピック同様、徹底された感染防止対策、選手村入村は競技開始5日前、試合終了後は48時間以内に退村という条件もあり、選手が楽しみにしていた開会式への参加は叶わず、宿泊していたNTCの自室で見ることとなりました。

パラリンピックが初めてで何もわからずにいた私にとって、田村監督から先に行われたオリンピックでの情報を共有して頂いたことは大変参考になりました。また、オリンピック選手と一緒に練習することによって、選手たちも大いに刺激を受け、モチベーションの維持に繋がったのではと思っています。

今大会には選手3名/4種目に出場し、2008年北京パラリンピック大会以来の入賞を目標にトレーニングを積んできましたが、結果は目標には遠く及びませんでした。

## <競技成績>

9月1日……参加選手3名の試合がこの日に集中。

[R3 10m エアライフル伏射 SH1 混合]

佐々木大輔選手と渡邊裕介選手が出場。佐々木選手は国内代表選考会で出場枠を獲得した日本トップレベルの選手。自国開催であり緊張しなかったというものの、629.4点の28位、8月に入り急遽出場が決定した渡邊選手は最終105.1点と粘りを見せましたが623.0点の45位に終わりました。

[R5 10m エアライフル伏射 SH2 混合]

水田光夏選手が出場。2019年シドニー世界選手権で東京大会出場枠を獲得。当日は激しい肩の痛みから、呼吸の調整が難しく苦しみながら撃ちきった、というのが本音だろう。628.6点で32位でした。

9月5日

[R6 50m ライフル伏射 SH1 混合]

今大会、唯一2種目に参加する渡邊裕介選手が出場。すでに選手2名と羽田コーチは退村しており、コーチと入れ違いに入村した北村トレーナーとともに見守ったが、610.1点30位という結果に終わりました。

※パラ射撃では種目をR1（アールワン）、P1（ピーワン）などと呼ぶのが一般的です。現在パラリンピックでの射撃はR1～R9までの9種目、P1～P4までの4種目 合計13種目が行われます。オリンピック種目から外れてしまった、ライフル50m 伏射や50m ピストルがパラリンピックにはあります。（R=Rifle P=Pistol）

私達は成績を残すことも大切なのですが、同時にパラリンピックを通して多様性を認め、社会のバリアを少しでも減らし、より良い社会を作るために世の中に発信していくことも重要な役割でもあるのです。大会中、様々な役割を担っていた方、今までパラ射撃を知らなかった会員の方、今後も選手の活動にご理解頂き、応援して頂けたらと思います。

コロナ感染症で世界中がパンデミックにある状況下で、東京オリンピック・パラリンピック競技大会は1年延期、国内外で開催を疑問視する声も多くある中、皆が様々な想いを抱えていたことでしょう。多くの人達に支えられ、このような厳しい状況の中で大会が開催されたことは本当に感謝しかありません。大会に携わったすべての方達に心から感謝いたします。ありがとうございました。



R3 佐々木選手



R5 水田光夏選手



R6 渡邊裕介選手



パラリンピアン田口亜希理事と



北村トレーナー、羽田コーチ



日本選手団居住棟前で



閉会式

## パラリンピック日本代表選手コメント

渡邊裕介（渡辺石炭株式会社）

東京2020パラリンピック開会2週間前の五次発表にて急遽参加が決まり、とても驚き正直戸惑いもありました。2024パリ大会へ向けて練習を開始した直後の出来事で、まずは急いで東京に行かなければというレベルでしたが、関係者の皆様のお陰で、2週間毎日ナショナルトレーニングセンターで練習させて頂き自信をもって大会に挑むことが出来ました。しかしながらその大会では、想像以上の緊張感と緊迫感で圧倒されたというのが正直なところで、経験値・能力不足を感じざるを得ませんでした。応援・ご声援、また多方面のサポートをして下さった関係者や会員の皆様に申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかしこの貴重な経験をさせて頂いたことで自分の世界が広がり、次へ繋げていくという糧を得ました。本当にありがとうございました。

また、コロナ禍での世界初のオリンピック・パラリンピックとなった今回、徹底された衛生管理や人流管理等により閉会を迎えました。世界中の選手は様々な形で開催国日本に感謝の気持ちを伝えてくれました。それは大会関係者・ボランティア・様々な関係先の皆様の真摯な働きによるものです。このような状況下で開会そして閉会を迎える事が出来たのは、日本人としてとても誇りに思います。そして大会を終え思うことは「感謝」の一言に尽きます。

佐々木大輔（モルガン・スタンレー・グループ株式会社）

初めて出場した東京2020パラリンピックが終わった。パラリンピック史上類を見ないコロナ禍という過酷な状況での開催であった。にもかかわらず、3000人ものボランティアの方々がこの大会を支えてくれた。コロナ感染者が増え続け、命の危険すらある中での参加。言うまでもなくこのボランティアの方々がいなければ大会は成り立たない。大会関係者、ボランティアの方々には感謝してもしきれ

ない思いでいっぱいだ。

選手村での生活は何不自由なく暮らすことができた。全ての動線に段差はなく、私たち障害者の目線にたった設計がなされていると感じた。

射撃会場でのバスの発着所から、射場へは少し坂がきつかったが、ボランティアの方々の「坂が急ですよ。車いすを押しましょうか」という一言に何度も胸があつくなった。

試合は不本意な結果であった。自国開催と、周りの方のサポートのおかげで、リラックスでき、程よい緊張感の中で試合ができた。しかし、結果が伴わなかった。この結果真摯にうけとめ、次に活かすべく対策を練っていきたい。

先日、パラ射撃の会場である朝霞射撃場の前を通った。もう、あの夢の舞台は解体されていた。東京からパリへ。新しい戦いは始まっている。



水田光夏（株式会社白寿生科学研究所）

生まれてきた中で様々な出会いがありました。全てが良いことだけで無く、残念で悲しいこともあり、私にとって一番残念な出会いは病気です。しかし残念な出会いがあったからこそ、射撃と巡り合うことができました。

この度、初めての大舞台となる東京大会へ出場するにあたり、射撃関係者、医師、恩師、友人知人、家族、大会関係者、ボランティアの方々、そして私の目で見えない所から支援して下さる沢山の方々を支えられ、この舞台に立つことが出来ましたことに深く感謝申し上げます。世界中の人々が感染症と戦う中、東京も緊急事態宣言中で行われた大会です。選手として普段とあまり変わらず試合に臨むことができましたが、その為にどれだけの人々の労力があつたのか計り知れません。

NTCでオリンピック選手の方々と共に練習させていただく中で、オリもパラも同じ射撃場で同じ標的に向かい姿勢こそ違えど同じ弾数を撃つなど、競技として違いは少ないということを改めて感じました。

東京大会への出場では、多くの失敗があつた中で今後に向けての課題など得るものがたくさんありました。3年後のパリ大会に向けてまた新たに目標を設定し、今後も歩み続けます。

# パラリンピック Field Cast 活動記

FOP（競技エリア）/ 競技備品チームリーダー  
渡邊 智幸

2018年にTOKYO2020の競技ボランティア（Field Cast）に応募して以来約3年。世界中の方々の様々な思いの中、緊急事態宣言下でのTOKYO2020パラリンピック開催、そして朝霞射撃場（ASR）での活動となりました。結果としては幸いにもASRでは感染者も事故もなく無事にパラリンピックは終了、Field Castとして関わらせて頂いた私には達成感や喜びよりは、ホッとしたというのが当時の正直な気持ちでした。パラリンピックが終了して早2ヵ月近くが過ぎ、冬の到来を感じながらもたまに大会の思い出に浸りながら一人でニヤニヤしています。2日毎に同じメニューのランチも思い出深いですね。（笑）

さて、我々FOPチームはファイナルホールと本選射場内で競技や表彰式の準備・片付けを主担当としており、射座のセット・消毒、空薬莢集め、床のモップ掛けやファイナルホールの表彰式及び次の競技への転換がその内容でした。まさに競技前後・競技中のアスリートに最も近い立場の為、様々なハンディを抱えながらも懸命に努力してきたパラアスリートに最適な競技環境を提供し実力を発揮してもらうこと、そしてパラアスリートが結果にかかわらず日本そしてASRは最高だったと感じて帰国して欲しい、という目標を持って活動しました。

そんな暑苦しいリーダーでしたが、幸いにも同じField Castチームの方々はオリンピックでも同じ役割を連日務められ経験十分だった為、リーダーの苦労なんて皆無で逆に助けられることばかりでした。皆さん自ら「持ちますよ。」「行って来ますよ。」「これどうしますか？」等々積極的で、さすが全国各地から自ら志願してASRに来られた射撃好きな方々ですから、Motivation高く頼もしい仲間でした。でも唯一非常に残念だったのは、そんな最高のField Cast仲間と一日の活動後に美味しいビールを飲んで語り合うことが出来なかったことです。その他多くの大会関係者やField Castの方々の、例えば、Perfectにセットされ



FOP Team

たFOPを求める方、折り紙や毎日違うホワイトボードの絵で和ませる方、小学生が育てた朝顔に水をやる方、最終日に列を作って拍手でアスリートを送り出す方々、皆さんの“おもてなし”の心に感動して密かにウルウルする毎日でした。

最後になりますが、パラアスリートの集中力と笑顔や涙の喜怒哀楽を間近で感じ、微力ながらもたぶん力になれたこと、そして射撃競技の経験のない私ですがその魅力を改めて認識できた今大会、一生に一度の経験をさせて頂いたことに感謝しかありません。

今大会の射撃競技に関わった、アスリート・競技役員・関係者そしてField Cast全ての方々に対するお疲れ様と感謝の気持ちが少しでも伝われば幸いです。ARIGATO！



メッセージ



ホワイトボード



送り出し



Final Hall



役員集合

# 東京大会報告

## ■パラ射撃



トレーニングをするウクライナチーム。射手は左から、イリナ・シェトニク（銅2個）、アンドリー・ドロシェンコ（銀1個） 写真：西岡浩記/WSPS



10mエアピストル男子 SH1

写真：西岡浩記/WSPS



10mエアライフル立射混合 SH2 Final。射手は、ワシリ・コワリチュク（UKR、銀1個、銅1個）

写真：ロイター／アフロ



50mライフル伏射混合 SH2 Final。手前の後ろ姿は、フィリップ・ヨエンソン（SWE、金1個）

写真：AFP／アフロ

## ■日本代表選手団



佐々木 大輔選手

写真：西岡浩記/WSPS



渡邊 裕介選手

写真：西岡浩記/WSPS



水田 光夏選手

写真：西岡浩記/WSPS



渡邊選手の用具検査



用具検査に帯同する羽田順一コーチ



渡邊選手、猪坂監督

## ■ NTO, ITO (運営)



赤ベストは、用具検査ジュリー ロバート・フェレンチャク (SLO)



用具検査 (背もたれ高さの検査)



用具検査 (背もたれ高さの検査)



用具検査 (銃の重心バランス位置の確認)



Equipment Repair (銃器から車いすの修理まで)



NTO



50m 電子標的のマスク交換



50m 電子標的のマスク交換

## ■ホスピタリティ・外交



霜日障射連会長プレゼンター



松丸日ラ会長プレゼンター



パーソンズ IPC 会長観戦



WSPS シニアマネージャー アンダーソン氏 (中央)



鳥原日本バラスポーツ協会会長、霜日障射連会長観戦



アンダーソン WSPS シニアマネージャー、霜日障射連会長



インド金メダリスト アバニ・レカラ (19歳 (大会当時)、金1個、銅1個))



チェコチーム



アメリカチーム シャオ選手



インドパラスポーツ協会会長



メダリスト (クリスティナ・ダビド (HUN) エアピストル女子 SH1 銅) との交流

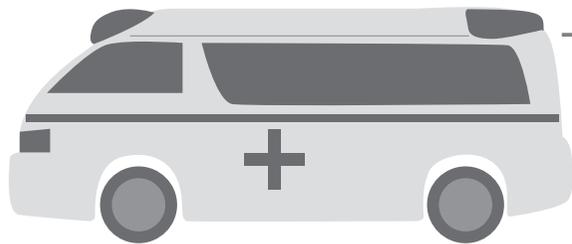


NTO、ITO



Field Cast

写真提供：田上 諒、谷川 諒、田村 達、津久浦弘子、仲本 渚



# パラリンピック射撃競技の 医務室報告

パラ射撃 選手用医療総括  
西本 裕

パラリンピックの医療は、主に選手村総合診療所と各会場の選手用医療施設、観客用医療施設により運営されました。朝霞の会場にも選手用と観客用の二つの仮設医務室が新設されそれぞれ4床ずつのベッドを備えていました。無観客となったため、観客用医療は大会運営スタッフを対象に活動しました。選手用医療は、私を含めた医師4名、看護師4名、理学療法士7名が交代で担当しました。

救護室に隣接して救急車待機場がありました(写真)が、幸いパラリンピック期間中には出動することはありませんでした。すぐ近くには新型コロナウイルス感染者が出た場合に備えて、陰圧装置を備えた隔離テントも準備されていました。こちらもパラ射撃関係で検査陽性者は現れませんでした。濃厚接触者となった選手数人が朝霞会場に来られましたが、他の選手との距離を置き、その選手からのゴミは別に集められてこのテントの前室で管理されました。

TOKYO 2020の8月は世界でも指折りの暑い大会が予想され、今大会の医療で最も力を入れたのが暑熱対策でした。国際大会を転戦している選手は、環境の変化や、大舞台での対応に慣れていますが、今回は感染対策のために事前に東京の暑さに慣れる期間も制限され心配されました。他の動的な競技と異なり、静的な屋内競技であるパラ射撃において熱中症のリスクは低いのですが、それでも、麻痺のために体温調整の困難な選手は、相当に体調の維持に気を使っています。競技期間の前半の最高気温平均は33.9℃に上り、選手1名、スタッフ1名の冷却処置を行いました。一転期間後半は最高気温平均22.2℃で風雨も重なり低体温症を心配する気候となりました。

一方、麻痺のある選手の場合、稀に痙攣(けいれん)を生ずることがあります。今大会では一人の選手が痙攣を発症しました。射場の緊張感の中ではなく、競技を終えて少し緊張の緩んだ時だったようです。筆者のparasportsの経験を思い返してみれば、飛行機を降りて現地の宿舎に入った夜とか、ジュニアの大会にコーチとして帯同したシニア選手が大会を終えて打ち上げの声を上げた時とか、確かにホッとした時に起こっている印象があります。

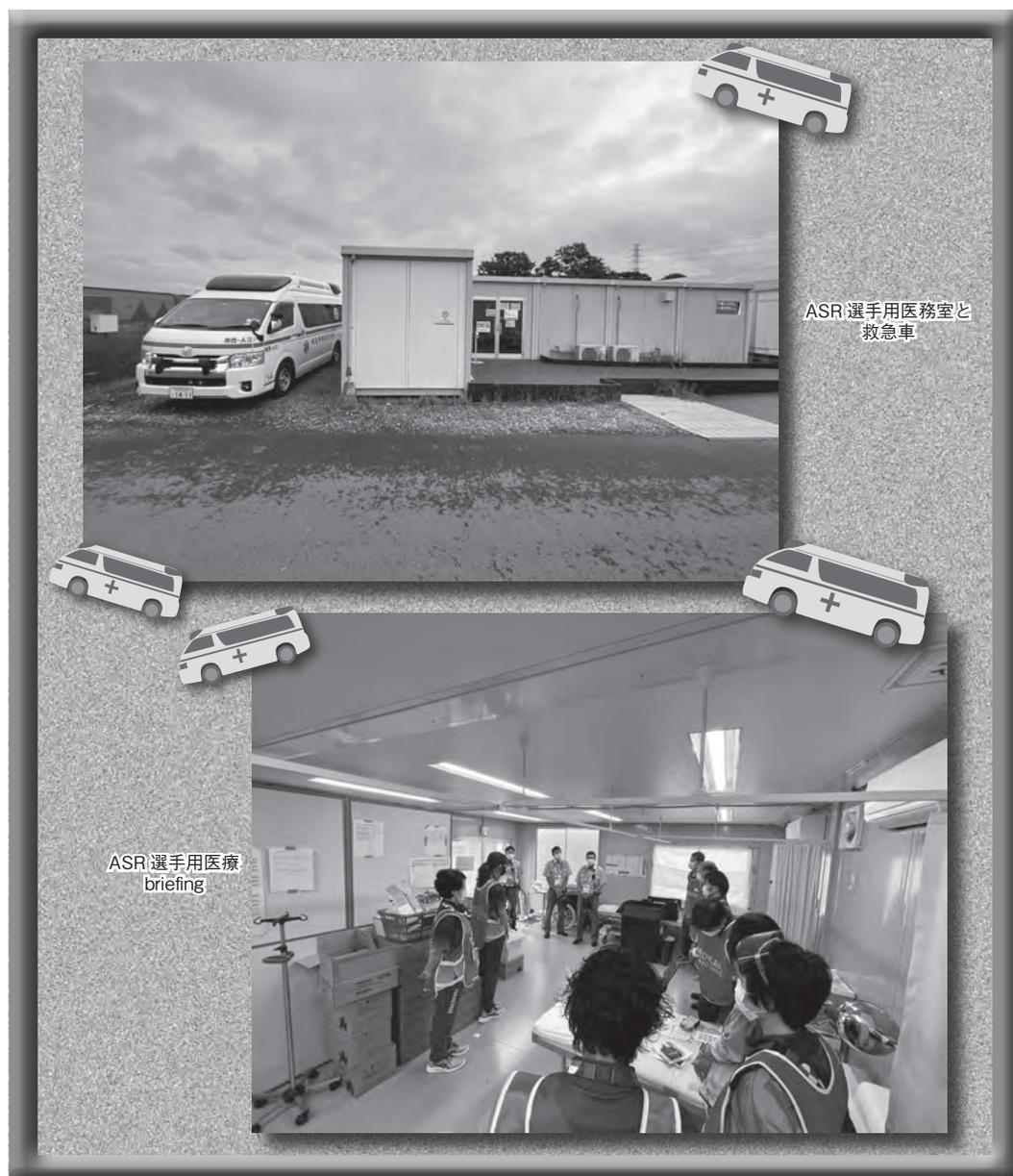
重症の痙攣が続くと呼吸管理のために救急搬送が必要になることもあるのですが、多く

は経過観察で落ち着きます。今回も当日、選手村に戻ることができ、その後の競技にも参加していました。

その他には義足内の皮膚トラブルなどが数件ありました。

各選手は普段トレーナーや医療関係者とよく相談されると思われませんが、国際総合競技大会では、選手専属のスタッフを帯同できない場合も多く、その大会の各国選手団の医療スタッフとのコミュニケーションが重要となります。

ともかく、今大会について多くのボランティアを含む大会スタッフのおかげで、大きな事故もなく無事に終わられたことを感謝しております。



ASR選手用医務室と救急車

ASR選手用医療 briefing



# コンサート・カメラマンが ‘アスリート’を撮る



西岡浩記

(Tokyo2020 パラ射撃 / IPC カメラマン)

私は長年、コンサートの写真を撮る経験を積んできた。

その経歴で＜TOKYO 2020 / パラ射撃＞カメラマンになる… その経緯を説明します。

パラ・スポーツを撮るきっかけは、'17年にパラ・パワーリフティング（ベンチプレス競技 / 以下パラパワー）を撮ったことから始まる。

音楽の舞台スタッフでもある、パラパワーの三浦浩選手の推薦で撮影した写真が日本パラパワー連盟の目に留まり、その後の国内大会を撮影することに。18年に北九州で開催された「アジア・カップ」で、ドイツから来ていた国際パラリンピック委員会（IPC）にも気に入ってもらったことで、その後の海外大会でも撮影することになった。各現地のカメラマンではなく、わざわざ日本から公式スタッフとして声をかけられることは大変に光栄なことであった。

20年2月 アフリカ・ナイジェリア大会の際、IPC 担当者から「TOKYO 2020では「パラ射撃」の撮影も」と打診があった（その時点では、わずか6か月後のこと）。

今まで撮った経験のない競技だが、私はすぐ「撮る」と返事をした。頭の中にはいくつかの理由（興味と自信）があったからだ。

## 【自信】

射撃の「集中」「緊張の空気感」、個人競技であること、その「表情を撮る」… これらが「パラパワー」や「ステージ上のミュージシャン」にも共通点を感じ、「自分に撮れる」と思い描くことができた。

## 【興味】

昔から「射撃」と「写真撮影」に共通点を感じていた。

‘写真を撮る’ことを英語で「Photo-shoot」と言い、「Shoot／撃つ」という言葉が使われる。[慎重に狙って][撃つ]、冷静に次の準備、それを繰り返す…  
デジタル写真の悪い癖＝無駄な連射＝「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」では魂のこもった写真は撮れない。「射撃のように1枚に集中して写真をShootする」ことを大事に考えてきた。

### 【1年の延期をポジティブに考え】

当初は、たった6か月後に公式カメラマンとなることへ焦る気持ちでいた。競技・ルールを知る、イチからの勉強となる。まずは、国内関係区（JPSSF）に連絡をつなげ自己紹介から始める。今すぐにも、国内大会の下見を希望した。

しかし、3月からのコロナ問題…全ての大会が中止となり、「このままでは撮影経験のないままパラリンピック当日に…」、そんな不安が頭をよぎった。

[1年の延期] 私はそれをポジティブにとらえ、「準備期間が延びた」と考えた。

その中、20年11月に石巻市で「全日本大会」開催を知り、撮れる機会を得た。そこでは[場の空気][選手の表情][競技・時間の進行]など、実際に肌で感じ、自分の目で見ると撮ることができた。その後も[過去の写真を学ぶ][自分ならどう撮るか][ポジション]の研究が進む。私にとって、あの1年は充実した期間だった。

パラリンピック前半はパラパワー、後半はパラ射撃に。カメラを通し[狙い][シュート]し、IPCチームに写真を共有…その進行に追われる日々だった。撮影時以外も、集中力を持ち続ける約2週間…

高レベルの試合を撮るのは、選手のみならず、トレーナーとの信頼関係、共に戦う‘銃器’…

無観客だった中、自分の写真で雰囲気伝えるのはとても重要な任務でした。競技を知り尽くしたとはまだ言い難く、奥が深いことを思い知らされました。これからも関わり続け、撮り続け、(パラパワーのように)世界中の大会でもこの任務につきたいと願っています。

# 海外チームからの声

## ■インド

計画し、努力したことは必ず報われる。

この4年間私は自分自身の人生を全てインドのpara射撃の為だけに捧げてきました。

そしてその甲斐あってインドは金メダルを2個、銀メダルを2個、ブロンズメダルを2個獲得することができ、東京2020パラリンピック大会は私の人生の中でとても素晴らしい経験となりました。

東京という都市と、規律正しく献身的な日本人々は、私たちの心の金メダルを勝ち取りました。(本当であれば)圧倒的な観客数、理想的に整った素晴らしい会場、日本のパラリンピック委員会による非の打ち所のない計画は最高レベルであったし、彼らの模範的な仕事振りは本当に素晴らしかったです。

日本政府、パラリンピック組織委員会、そして何よりも、私たちの滞在を快適なものから特別なものにしてくれたボランティアの方々に感謝したいと思います。

日本の皆様、ありがとうございました。



J.P. ナウティヤル  
(NPC インド para射撃 チーフナショナルコーチ)



## ■アメリカ

ライフルスポーツの方へ (Xiao Gong Team USA シャオ ゴング チームアメリカ)

最初から最後まで、私の心を打ったのは、会場の「フィーリングベース」という感情的な側面を避けて通ることはできません。最初の印象は、射撃場で働く日本人ボランティアやスタッフの方々の親切さとエネルギーの大きさと、それは冷たいわけでも、わざとらしくもなく、その根底には大きな尊敬と自尊心があることを感じました。暖かな「こんにちは」や「お元気ですか」以外にも、彼らは世界の様々な人々の価値観を理解し、それに常に関わろうとしており、大会に来ている人達に感謝をしていました。そのような事は彼らに大きな自尊心と強さが必要であり、日本の豊かさを表しているのではないのでしょうか。

私は、彼らが異なる場所から来ている人々をまるで自分達の隣人のように扱ってくれるだけでなく、アスリート達に共感することに長けていて、本当の家族であるかのように相手の立場に立って、並外れた質の高い感性を持っている事を大会中何度も感じました。射撃場では、選手、コーチ、プレスなどの間を行き来しながら、ボランティアの人たちが最もよく働き、細かい規則がある中出来る限りあらゆる面で選手を助け、快適に過ごせるようにしてくれました。これは時期的に非常に難しいことであったと思います。人間的な優しい心があり、その心は賞賛に値します。

特に、すべてが政治的に決めたことが正しいとされる中、洗練されたシステムで知られる日本においても、このコロナ禍での細かい制約がある中で見せてくれた精神の健全さ、そしてその制約の中で可能な限りできることを探す暗黙の理解と相互理解が、ボランティアから上層部まで、そこで働いている人々の根底に横たわっていました。映画「シンドラのリスト」で鳥肌が立ったことを思い出しました。

異国の地の大会で、そういう人たちが数人いるだけでも、ほっとし、安心した気持ちになりますが、これだけの規模で、ボランティアや組織委員会のスタッフ達全体の根底にこのように統一された精神のようなものを感じ、コロナ禍での大会ではありましたが、私達は特に不安になる事もなく、逆に強い希望や光すら感じました。



「単なる日本の文化」という言葉では言い表せないもっと深い心を感じた気がします。2021年の日本の人々の強さ、自信、共感する能力、官僚主義や偽善を感じさせない素晴らしい大規模な大会…。この統一された、正体不明の大きな不思議な力は、いったいどこから来たのでしょうか。1945年から今までの間のどこかで、ずっと前に根を張り、芽を出したのではないのかもしれませんが。私はこのコロナ禍の難しい時にどうようにこの大会をやったのかを知りたいと思いました。

アメリカに帰国する途中にオリンピック村ではない、外の世界にあるトイレに立ち寄ったのですが、そこには太った人、痩せた人、背の高い人、低い人、車椅子、目の不自由な人、知的障害者、さらには潔癖症の人や片親の家庭にも対応できるように設計されたトイレがありました。その心配りができる国民性が素晴らしいのは当然として、今回のオリンピック・パラリンピックの開催国としての日本からは、ナショナリズムや傲慢さのようなものは一切感じられませんでした。そのような国の日本は長い歴史のある民族国家の中では稀有で貴重であると思います。この大会では自信、強さ、共感、尊敬、そして包容力をとても強く感じることができました。

## ■チェコ（抜粋）

東京2020パラリンピック競技大会に、チェコ共和国射撃チームリーダーとして参加したオールドリッチ・ヤンチャです。

パラリンピックの大会自体は素晴らしかったです。

私にとっては初めて経験したパラリンピックでした。

これほど規模の大きなイベントに参加したことがなく、選手として参加したわけではありませんが、私にとっては大きな出来事であり、一生忘れられない素晴らしい経験となりました。

運営も、宿泊施設も良く、食べ物や飲み物も美味しくて豊富でした。

今大会の射撃競技自体も素晴らしかった。

ボランティアの人たち、組織委員会、WSPS、日本ライフル射撃協会のスタッフ達は皆親切で明るく、誰もが私たちと気軽に話をしてくれました。

射撃場は素晴らしく、私自身が選手としてそこで競技できないことがとても残念



に思えました。

しかもその素晴らしい射撃場は仮設で後に取り壊されてしまうと聞き、なおさら残念でした。

将来、日本でまたこのような国際的な大会（WSPSのワールドカップやチャンピオンシップ）が開催されることを切に願っております。

個人的には日本で新しい友人ができたことが一番の収穫です。なので私は自信を持ってアーノルド・シュワルツェネッガーのあの有名な一言で締めくくります。

“I'll be back!”（また日本へ戻ってきます！）

## ■ウクライナ

私は Tokyo 2020パラリンピック  
ウクライナ人民共和国ライフル射撃代表  
イリーナ シチェトニクです。

パラリンピックは私にとって素晴らしい価値のある大会でした。

私にとって初めてのパラリンピックであり、一生忘れる事がない大会となりました。

自分自身がプロとして自己啓発を素晴らしい形で出来た大会でもあります。

Tokyo 2020は私に翼をくれたのです。



## 本校の取組について

新座市立栄小学校

本校は5年間にわたり、オリ・パラ教育について取り組んできました。オリ・パラ教育のねらいとして、スポーツに親しみ、日本人としての自覚をもって、多様性や共生を目指すこれからの社会の一員としての資質を育てていくということがあげられます。例えば、オリパラタイムで競技やそれを支える方々について学ぶ、アスリートの講演を聞く、チームライフなどの体験、おもてなしのための茶道体験、地域の清掃活動など、様々な活動を行ってきました。また、子供たちは隣の朝霞駐屯地に少しずつ用意されていく射撃会場を日々眺めながら、オリンピック・パラリンピックの開催を楽しみにしていました。

今回の観戦はオリ・パラ教育の一環として、もちろんアスリートを応援するということはありますが、今までの学びを実感するという点でも位置づけていました。感染症拡大により、様々な考えがあることから、希望者による観戦となりましたが、新座市教委が提供した、「TOKYO 2020学校連携観戦プログラム観戦ガイドブック」を基に感染対策を徹底し観戦することができました。当日は、会場の関係者からサポートを受けながら競技に臨む選手たち、表彰式では大会関係者が段差のない表彰台を設置する様子を見ることができ、競技以外でもたくさんの方の姿を見ることができ子供たちにとって一生に一度の有意義な体験であったと考えます。今後は、オリパラ教育で学んできたことを実際に見て、感じたことを何らかの形にしていきたいという思いをもち、振り返り学習へとつなげていきます。



## 生徒感想文

### オリンピックパラリンピックの学習を通して

5年生男子

僕は一年生の時から栄小学校でオリンピックやパラリンピックの学習をしてきました。東京2020五輪音頭、ブラジル選手との交流、射撃体験、車椅子バスケットボール体験などたくさんの五輪にまつわる行事をしてきました。そして2020年がとても楽しみでした。しかし、コロナウイルスの影響でオリンピックパラリンピックが1年延期。さらに1都3県では無観客となり家族で持っていたサッカーのチケットも手放すことになりました。そしてそのままテレビの前で約5年間かけて学習した、オリンピックが終わり、一生に一度のチャンスを逃してしまった気がしてとても悲しくなりました。しかし、まだ東京2020は終わっていませんでした。なんとパラリンピックが残っていたのです。「まだチャンスはある」と思っていたのですが、結局無観客の開催となり本当に2020は終わったと思いました。それから数日後、学校からなんとパラリンピック観戦の案内が来たのです。僕は無観客ということで学校観戦は考えていませんでした。なのでとても嬉しくて絶対に行きたいと強く思いました。当日大会関係者や警察の方々のおかげで無事競技を見ることができました。そこでまず思った事があります。それは、「障がいを持っているのに健常者の人と変わらないくらい上手だなあ」です。全員が当たり前のように10点を出していて「凄い」と感じました。しかし僕が凄いと思ったのは障がい者だからです。健常者だったらこの気持ちは現れないと思いました。その後、テレビを見ていると障がい者がこんな話をしていました。「障がい者だからという理由で感動されるのは偏見なのではないか。」最初に聞いたときは全く意味がわかりませんでした。「なんで自分の事を褒めてくれたり、感動してくれてもそれが偏見になってしまうのだろうか。」それが謎で、よく意味がわかりませんでした。しかしよく考えてみるとこんな考えが浮かび上がりました。「障がいがある人も同じ人間なのだから健常者とは違う理由で感動されても、結局は障がいのある人ない人で分けられているからそれは、偏見につながっているということなのではないか」と感じて、今までの考え方は障がいのある方に逆に失礼だということに気がついて、これからは、「障がい者だから凄い」じゃなくて「人間として凄い」と言えるようになりたいと思いました。

テレビの前で全力で応援した「オリンピック」障がいのある人への考え方について知った「パラリンピック」どちらも一生の宝物になりそうです。





東京2020パラリンピック競技大会（日本／東京）

2021年8月30日(月)～9月5日(日)

射撃会場：陸上自衛隊朝霞訓練場(東京都・埼玉県)

Mixed 10m Air Rifle Prone SH1 (9/1)

① HILTROP Natascha (GER) 635.4 253.1
② PARK Jinho (KOR) 638.9 634.1
③ SHCHETNIK Iryna (UKR) 635.1 231.2
④ SAAVEDRA REINALDO (ESP) 634.6 210.1
⑤ DONG Chao (CHN) 632.7 189.2
⑥ VADOVICOVA Veronika (SVK) 634.6 167.7
⑦ COSKUNER Erhan (TUR) 632.8 146.8
⑧ INTANON Atidet (THA) 634.1 125.4
⑨ 佐々木大輔 (JPN) 629.4
⑩ 渡邊裕介 (JPN) 623.0

Mixed 10m Air Rifle Prone SH2 (9/1)

① RISTIC Dragan (SRB) 638.2 255.5
② KOVALCHUK Vasyi (UKR) 639.1 254.7
③ TIRSEK Francek Gorazd (SLO) 635.4 232.4
④ LEE Jiseok (KOR) 635.5 211.0
⑤ de la FOREST Tanguy (FRA) 637.4 189.1
⑥ BARDFIELD Stetson (USA) 635.6 167.8
⑦ JEFFERY Tim (GBR) 636.7 146.5
⑧ LIVERANI Andrea (ITA) 639.4 124.5
⑨ 水田光夏 (JPN) 628.6

Mixed 50m Rifle Prone SH1 (9/5)

① VADOVICOVA Veronika (SVK) 620.3 248.9
② NORMANN Anna (SWE) 620.2 248.5
③ SAAVEDRA REINALDO (ESP) 620.6 226.3
④ FEVRE Cedric (FRA) 620.8 205.0
⑤ HILTROP Natascha (GER) 627.7 184.6
⑥ ALNUAIMI Saif (UAE) 618.3 163.5
⑦ DONG Chao (CHN) 617.4 142.0
⑧ SHCHETNIK Iryna (UKR) 617.5 121.6
⑨ 渡邊裕介 (JPN) 610.1

ライフル (50m) ナショナルチーム選考会②

2021年10月9日(土)～10日(日)

大阪府・能勢町ライフル射撃場

50m Rifle 3-Positions 120

① 遠藤 雅也(名阪急配株式会社) 1167
② 山下 敏和(自衛隊体育学校) 1159
③ 松本 崇志(自衛隊体育学校) 1159
④ 花川 直樹(自衛隊体育学校) 1158
⑤ 岡田 直也(ALSOK) 1156
⑥ 橋爪 一馬((公財)岐阜県スポーツ協会) 1156
⑦ 信田 健介(株式会社横浜銀行) 1154
⑧ 篠原 章宏(福井県スポーツ協会) 1153
⑨ 島田 敦(自衛隊体育学校) 1150
⑩ 吉川 和宏(神村学園) 1149
⑪ 大垣 勇斗(明治大学) 1148
⑫ 以西鷹一郎(日本大学) 1147
⑬ 橋本 昂希(法政大学) 1141
⑭ 岩崎 貴文((公財)滋賀県スポーツ協会) 1141
⑮ 八川 綾佑(株式会社デンケン) 1139

⑯ 山本 拓生((公財)三重県スポーツ協会) 1137

⑰ 片山 敏郎(南丹市役所) 1137
⑱ 盛田 泰成(サンニュー技研工業) 1132
⑲ 長部谷 響(自衛隊体育学校) 1132
⑳ 長田 好生((株)富創) 1127
㉑ 町田健太郎(株式会社鴻池組) 1124
㉒ 小林 郁弥(北関東総合警備保障(株)) 1120
㉓ 佐々木健人(ゴールドマン・サックス) 1120
㉔ 大場仁千弥(明治大学) 1115
㉕ 景山 拓朗(株式会社鴻池組) 1109

⑤ 前田 留那(早稲田大学) 1158

⑥ 河本 理桜(明治大学) 1157
⑦ 松本 靖世(いちご株式会社) 1154
⑧ 川原 楓(自衛隊体育学校) 1152
⑨ 砥石 真衣((株)日立システムズ) 1151
⑩ 堀之内 愛(日本大学) 1150 X=56
⑪ 中口 遥(滋賀ダイハツ販売(株)) 1150 X=39
⑫ 井浦 一希(如水会 今村病院) 1146
⑬ 新里葉津紀(鹿児島県ライフル射撃協会) 1145
⑭ 一ノ渡 桜(アマノ株式会社) 1143
⑮ 町田 莉子(同志社大学) 1140
⑯ 千葉 朔海((株)日立ビルシステム) 1139
⑰ 目羅 渚(同志社大学) 1134
⑱ 山田 優子(セキショウグループ) 1129
⑲ 若宮 有美(兵庫県ライフル射撃協会) 1120
⑳ 鏡平名アリス(同志社大学) 1119

50m Rifle 3-Positions 120W

① 鷗飼 風音(株式会社たねや) 1168
② 清水 綾乃(自衛隊体育学校) 1163 X=54
③ 高橋 佳伶(井村屋(株)) 1163 X=51
④ 平田しおり(明治大学) 1162

ピストル (25m) ナショナルチーム選考会②

2021年10月18日(月)～19日(火)

東京都・NTC イースト射撃場

25m Rapid Fire Pistol 60

① 吉岡 大 582 18X
② 市川 広義 570 16X
③ 武内 響 570 10X
④ 久松 慶太 569 18X
⑤ 森 栄太 567 16X
⑥ 岩田 泰輝 566 15X
⑦ 金坂 春杜 563 12X
⑧ 飯村 嘉一 562 9X
⑨ 本村 将紀 557 6X
⑩ 畠中 祐輝 524 9X
⑪ 生野 明利 503 4X

25m Pistol 60W

① 小西ゆかり 583 19X
② 山田 聡子 576 18X
③ 佐々木千鶴 573 9X
④ 財津 美加 568 16X
⑤ 星野 優奈 566 11X
⑥ 佃 愛音 560 15X
⑦ 細野裕理子 560 11X
⑧ 相田 愛望 559 6X
⑨ 相澤ひかる 556 11X
⑩ 村上 香穂 554 7X

# ビームライフルで射撃スポーツを始めましょう!

## BEAM·RIFLE SHOOTING SYSTEM

### ビーム・ライフルの特徴

- ビーム・ライフル/ピストルの光源はキセノン管発光で、人体には影響のない安全な光です。
- 標的装置の設置は水銀灯、白熱灯、蛍光灯などを使用する体育館や教室で利用できます。



ビームライフル ジュニア用 型式 MBR-203J

この銃は 3.0 k g と軽量で、全長も小中学生などに合わせた入門者向けのモデルです。バットプレートは体格に合わせて、前後に調整できます。専用バッテリー、サイトセット、ハードケースが付属します。



ビーム・ライフル 型式 MBR-201

この銃はチークピースの調整を容易にした、バランスー付の競技者向けのモデルです。

### ビームライフル・システム



ターゲット装置  
型式 MT-201



ディスプレイ装置  
型式 MD-201L



プリンター装置  
型式 MP-216

〔 製造・発売元 〕

—KOTO— 興東電子株式会社

本社 〒306-0232 茨城県古河市東牛谷 603-2

電話 0280-98-3387 FAX 0280-98-1180

<http://www.kohto.co.jp> E-mail: [info@kohto.co.jp](mailto:info@kohto.co.jp)



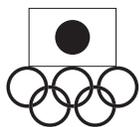
# 来たとき よりも キレイに!

世界に示す、クリーンジャパン



KEEP EVERYTHING  
MORE BEAUTIFUL  
THAN IT WAS.

Show the world, CLEAN JAPAN!



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE  
公益財団法人 日本オリンピック委員会



10.9 FOCUSED.  
TARGETED.  
EXACTLY.

WALTHER

**LG400  
MONOTEC**



**KK500**  
PRECISION IN A NEW DIMENSION

**POWERED PERFORMANCE.**



(公社) 日本ライフル射撃協会オフィシャルサプライヤー

株式会社 **國友銃砲火薬店**

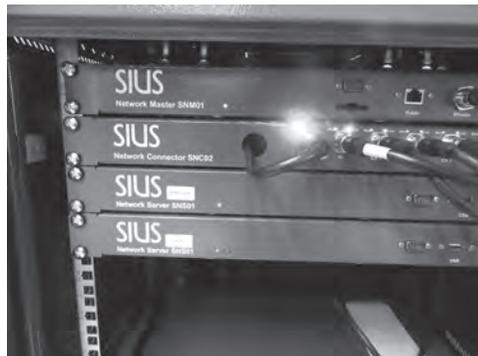
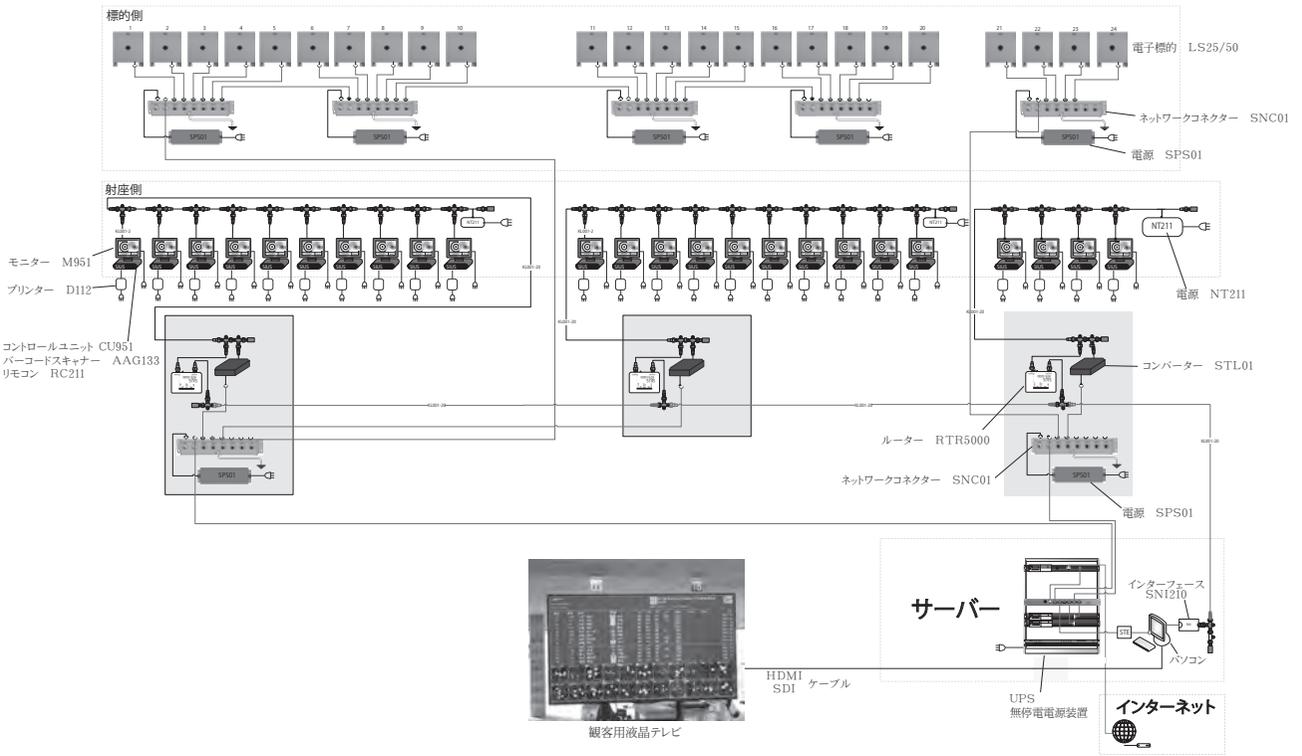
〒600-8032 京都市下京区寺町通仏光寺東入る 國友ビル 3F

ワルサー社・エレー社 日本代理店

TEL(075)351-3037 FAX (075)351-3041

<http://www.kunitomogs.co.jp> E-mail: [shooting@zj8.so-net.ne.jp](mailto:shooting@zj8.so-net.ne.jp)

# STYX ネットワークシステム



ISSF公認 (Phase III・最高評価の公認)

光学式電子標的・超音波式電子標的

SIUS 社 日本総代理店

日本ビーム株式会社

www.japanbeam.com



# 日本全国へ販売設置を致します。

## ■ Meyton(マイトン)電子標的システム



### Meyton電子標的の特徴：

- ・赤外線バリヤを通過した位置を測定
- ・センターは常に一定
- ・測定精度は1/100mm
- ・ワークステーションによる一元管理
- ・1台から利用可能
- ・10m, 50m競技用 (25mは別製品)
- ・測定用消耗品は不要

### Meyton(マイトン)電子標的導入射撃場(順不同)：

新潟県立胎内ライフル射撃場(10m, 50m)、茨城県営ライフル射撃場(10m, 50m)、福井県立ライフル射撃場(10m, 50m)、  
神奈川県立伊勢原ライフル射撃場(10m, 50m)、くりはま花の国エアライフル場(10m)、宮城県ライフル射撃場(10m, 50m)、  
沖縄県ライフル射撃場(10m, 50m)、慶應義塾大学(50m)、中央大学(50m)、日本大学(10m, 50m)、明治大学(10m)、  
その他高校・大学多数導入 ※大阪府能勢町ライフル射撃場(10m, 50m): メンテナンスのみ (國友銃砲火薬店様導入)

有限会社 三和管財

〒277-0862 千葉県柏市篠籠田1316 TEL: 04-7143-6122 Fax: 04-7147-0745  
Meyton社製品 日本ディストリビューター / Noptel社製品 輸入代理店

## ライフルスポーツ 購入申込方法

◆お申し込みは郵便振替または現金書留で下記の宛先までお願いします。

⇒郵便振替の場合

郵便振替 00140-0-707998 公益社団法人日本ライフル射撃協会

⇒現金書留の場合

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 公益社団法人日本ライフル射撃協会ライスポ担当

◆価格（送料込み）

⇒一部300円、年間1,800円 学生・生徒一部200円、年間1,200円

◆会員への配布

⇒会員については、会費に含まれていますので、自動配布となります。ただし、大学生及び中高生会員への配布は、当協会の規程によります。

⇒会員のご登録住所にお届けしております。ライフルスポーツがお手元に届かない場合は、所属加盟団体へ登録住所のご確認をお願い致します。

## 原稿募集します

□活動状況など

⇒各加盟団体や学校やクラブなど活動の様子を紹介します。

□エピソードなど

⇒射撃にまつわるおもしろいエピソードなど大歓迎します。



□協会に対する意見、質問など

⇒会員からの協会に対する直接の意見や質問をお寄せ下さい。なるべく建設的な意見を。

□投稿規定

⇒A-4に横書き（2段組み、各21文字）でお願いします。データも付けていただくとライスポ掲載に便利です。  
※現在紙面の都合で掲載できずにお預かりしている原稿が多数あります。投稿される際は事前にご相談ください。

●発行人 ————— 松丸 喜一郎

●編 集 ————— 総務委員会

●発行所 ————— 公益社団法人日本ライフル射撃協会  
(2019年7月より 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE  
新住所) 電話 03-6721-0792 / FAX 03-6721-0793  
E-mail: rifle@japan-sports.or.jp  
http://www.riflesports.jp/

●印刷所 ————— 広研印刷株式会社  
〒171-0033 東京都豊島区高田 3-3-16  
電話 03-3208-8273 / FAX 03-3208-8244

本誌は、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。

ALSOKは、

東京2020オリンピックを

応援しています。



TOKYO 2020



**ALSOK**

東京2020オフィシャルパートナー  
(セキュリティサービス&プランニング)



ライフル射撃  
岡田 直也



# ライフルスポーツ THE RIFLE SPORTS 2021.6

第451号

令和三年十一月一日発行 隔月(奇数月)一日発行  
昭和五十三年二月二十五日第三種郵便物認可

発行人・松丸喜一郎  
発行所・公益社団法人日本ライフル射撃協会

東京都新宿区霞ヶ丘町4-1-2



# #ともに 越えよう

休んでたわけじゃない  
不安や孤独と戦いながら 高めていたんだ  
闘志を 自分自身を

私たちの 想いは 情熱は  
湧き立ち みなぎり 駆り立てる  
前へ 前へ 前へ

できる やれるよ 私たちなら想いをひとつに  
その先へ行く力 「ダイバーシティーコンセプト」

さあ スポーツが待ってる

REACH BEYOND



定価 300 円